

地方連携推進室での1年間

平成28年7月
外交実務研修員 浅倉祥一
(茨城県より派遣)

1 はじめに

私は平成27年4月より外交実務研修員として茨城県庁より外務省に派遣されました。派遣後から約1年間、大臣官房総務課地方連携推進室で勤務し、その後伊勢志摩サミット・広島外相会合準備事務局を経て、現在は中東アフリカ局中東第二課に勤務しています。すでに一度グローバル外交ネットのレポート（平成27年4月：外交実務研修員としての4年間）を寄稿していますが、本稿では地方連携推進室での業務内容、同室での勤務を終えての雑感を述べさせていただきます。

2 地方連携推進室での業務

地方連携推進室では、地方との連携を推進する各種業務を行っていますが（具体的にはグローバル外交ネットをご参照ください）、私はその中で、飯倉公館（外務大臣主催の会談やレセプションに使用する外務省施設）を活用した地域の魅力を発信するレセプションを主に担当していました。レセプションにも2種類あり、各国在京大使と全国市町村長を招待する「全国市町村会議に際する外務大臣主催レセプション」（市長会レセ）、特定の自治体と共催で実施する「地方創生支援飯倉公館活用対外発信事業」（飯倉レセ）があり、計6回のレセプションを担当しました。

市長会レセは、全国市長会議に際して来京された全



市長会レセの様子



飯倉レセ（広島）の様子

国市町村の首長や、各国大使を飯倉公館に招待して、市町村と外交団の交流を目的に行うレセプションです。レセプション会場には、自治体によるブースが多数設置され、参加者に対してお祭りのような雰囲気でも地域のPRを行います。昨年は6月に行い、約200名の方が参加され、参加者に御好評いただきました。

飯倉レセは、平成27年から岸田外務大臣

のイニシアティブで始まった事業です。市長会レセとは異なり、特定の自治体に焦点を当て、その自治体が発信したいものをテーマにレセプションを行います。平成27年度は、広島県・広島市、三重県、青森県、香川県、今年度は6月に茨城県と共催で実施しましたが、各回とも自治体ごとにそれぞれの特色を出した賑やかなレセプションとなり、毎回300名近い出席者を迎えました。各国大使を中心とした参加者にとっては、日本の知られざる地方の魅力を、東京にしながら体験できる機会となっており、また、自治体にとっては、飯倉公館という格式ある施設で外務大臣と共催のレセプションを行うことにより、各国大使、企業代表者などハイレベルな方々にご参加いただけることもあり、絶好のPR機会となっています。



飯倉レセ（三重）の様子

3 茨城県との共催レセプション

地方連携推進室では、多くの事業を担当させていただきましたが、その中で一番印象



飯倉レセ（茨城）鏡開きの様子

に残っているものは、やはり私の派遣元である茨城県との共催で行った飯倉レセです。茨城県では、今年5月15日～5月17日に、つくば市においてG7茨城・つくば科学技術大臣会合が開催されましたが、その事後PRを含めて、茨城県が誇る最先端技術や伝統文化、特産品などを対外的に発信する機会を求めていました。そのため、G7会合後の間もなくの時期に飯倉レセ

を実施することを希望され（私自身も切望していました）、本年6月に実施する運びとなりました。外務大臣と茨城県知事の共催レセプションは、外務省で働く茨城県職員としては、これ以上ないやりがいのある事業です。

レセプションでは、各種体験型ロボットや結城紬など茨城県の産品を紹介する様々なブースを設けるとともに、ステージでは三味線の演奏やゆるキャラのパフォーマンスも行われ、茨城らしさが満載でした。また、常陸牛やメロン、納豆など、ありとあらゆる茨城県食材を使用した各種料理が提



飯倉レセ（茨城）PRブースの様子

供されました。さらに、レセプションに先立って同会場で行われた「いばらき外資系企業等誘致セミナー」では、茨城県の投資環境についてのプレゼンテーションが参加者に対して行われました。



いばらき外資系企業等誘致セミナーの様子

本レセプションを通じて、各国大使、外資系企業関係者、外国報道機関を中心とした参加者に、まず茨城県の存在を知っていただくとともに、茨城県に興味を持っていただく機会を提供できたと感じています。また、参加者と茨城県関係者との間で意見交換、名刺交換等がなされ、県内事業者の海外展開促進や海外からの誘客促進の今後の可能性が少なからず拡大したことと思います。そして、企業誘致においては、セミナーでの茨城県の投資環境の説明に、多くの参加者が感銘を受けたように（特に東京との距離の近さについて驚いたという意見が多く聞かれました）、日本、特に首都圏への新たな投資を検討される中で、茨城県という新たな選択肢を与えることができたことと思います。レセプションによる効果については、すぐ目に見える形では現れてはいませんが、茨城県関係者等にとって各国大使と接点を作る機会がほとんどない中で、そのような機会を設けることができただけでも一定の成果があったと考えています。



レセプション会場の盛況ぶり

4 地方連携推進室での勤務を終えて

地方連携推進室では、多くの貴重な経験をしました。基本的には地方をPRするイベントの実施がメインであり、外務省らしくない（個人的な感想です）気もしますが、前稿でも書いたとおり、地方自治体の職員でありながら、国の立場に立ち各地域の魅力の对外発信する場に立ち会うことができたことは、自治体職員としてはこの上ない経験になったと感じています。各地域のPR方法を目の当たりにし、またその取組が成果につながる機会に立ち会うことで、勉強になる部分が多くありました。逆に、どの地域でも似た方法やモノをアピールしていることも多々見受けられ、差別化が難しい部分もあり、今後いかに茨城県の他地域と異なる部分をアピールしていくことができるかを考える良い機会となりました。地域の魅力発信について色々な角度から見ることで、広い視野を持つことができたと思っております。

引き続き外務省での研修は続きますが、現在所属する中東第二課では、今までの業務

とは少し色が違う外交の見識を深めつつ、語学力向上にも力を入れ、来る海外勤務への準備を整えていきたいと思います。そして、初めて外務省に派遣された茨城県職員として（勝手ながら）自覚を持ちつつ、今後も茨城県職員の外務省での研修が続くように、茨城県庁に復帰した際は、研修成果を少しずつ目立つ形で発揮できればと考えています。

最後に、地方連携推進室でお世話になりました皆様に改めて御礼を申し上げつつ、本稿を締めくくりたいと思います。